第３３５回産業事情検討会（1 月 16 日開催）

2013 年　中国政治はどこに向かうか

早稲田大学　政治経済学術院　教授　唐　亮氏

昨年から反日デモや暴動などの事件が多く報じられている。開かれつつも不透明な部分を多く残す中国。我々は断片的な情報に流されてしまいがちである。個々の確認は重要だが、全体の流れに位置づけた上で個々の問題を理解する必要がある。建国から約 60 年、毛沢東時代の動きは大まかに見れば失敗したといえる。鄧小平の近代化を進める仕組みや手法は開発独裁モデル。政治的には権威主義、経済は国家が関与しながらも市場メカニズム取り入れるモデルである。

改革解放路線が始まって約 30 年。中国は一定の実績を上げながらも、問題だらけの現状。今の中国をどうとらえればいいのか。近代化のプロセスを三段階でとらえ、今日の発展段階を近代化の第二段階と位置づけてその特徴を理解する。

「重層的な集権体制」－国家と共産党があり共産党に権力が集中し、地方と中央があり、政治は中央集権、そのなかでも最高指導者の影響力が強い。

「団体規制とメディア統制」－社会安定化の機能を持っていることに注意。社会的不満が全国的な反発に拡大しないよう、小規模な抗議行動に分断して社会的安定を図る。「民度」という言葉があるが、教育や生活態度、住民の自治能力が十分に発展していない中、自由と権利に一定の制限をしながら、安定と秩序を確保して、経済社会発展を進めていく。

近代化の第一段階ではまず「経済発展」が最優先課題となる。貧困、飢え、衣食住のための物資の不足という根本的な問題からの脱却が急務である。政治改革よりも、人口の 9 割を占める農民の生活をどう改善するかが最重要課題。

近代化の第二段階になると平等・公平を求める「社会政策の強化」が重点課題となる。ある程度生活条件が整う中で生じてくる格差や不平等、環境問題。平等や公平を保証するための社会政策に力を入れることはできても、無条件に民主化を進めれば社会混乱や秩序の崩壊といったハードランディングに陥る。社会や国民がこうむる体制移行のコストが大きい。

中間層の知識人の多くは欧米の価値観に近い考え方を持っている。しかし民主主義の理想を共有しながらも、民主化を進めるのはまだ早いと考える人々も多い。胡錦濤、温家宝の時代から近代化は、努力が経済的な見返りによって報われる状況が生み出された。それと同時に人々の欲望も解放され、拝金主義が広まった。対処しなければならない問題が顕在化している。

中国のネット規制について、実際は規制しきれていない。何か事件があった際、また特定の反体制運動に関わる言論に絞って情報が規制されている。4~5 億人のネットユーザーがいるといわれており、ネット社会全体を規制することは不可能。世論形成をめぐって政府系メディアとネット情報が対立、その主導権が変わりつつある。指導部が交代してもこの課題の重要性は変わらない。ネットが普及した現在、従来のやりかたでは社会秩序は維持できなくなっている。力で統制するのとは異なる、新しい時代に適した秩序維持が求められている。